

# 連合 徳島



JTUC-TOKUSHIMA

NO.212 (2010年2月23日)

発行人・小松義明 編集人・齋藤英司

日本労働組合総連合会徳島県連合会

〒770-0942 徳島市昭和町3丁目35-1

徳島県労働福祉会館6F

088-655-4105 Fax 088-655-4113

E-MAIL [info@tokushima.jtuc-rengo.jp](mailto:info@tokushima.jtuc-rengo.jp)

すべての働く者の連帯で、希望と安心の社会を築こう

2月24日(水) 県職労中央委員会 13時30分(県職員会館)

25日(木) 第3回五役会議 10時(連合徳島)

第4回20周年記念事業PJ会議 12時30分(連合)

第3回執行委員会 13時30分(県職員会館)

第3回中央地協結成準備委員会 16時(県職員会館)

当面の日程



第30回部落解放・人権徳島地方研究集会が2月17・18日の2日間、「すべての力を集めて『部落解放・人権政策』を確立しよう。反差別・人権確立・福祉の向上をめざした県民運動を展開しよう」をスローガンに徳島市内で開催され、延べ2,200人を超える方々が参加した。

初日の全体集会は徳島市文化センターで13時から開かれ、川越実行委員長(地方共闘議長)は「本集会は、全国的にもユニークな取り組みとして評価をいただき中で30回を迎えた。30年前は、高度経済成長からオイルショックを経て、円高、日本経済の低迷期、社会不安も増大した時期で、部落差別を始めとした様々な差別事象も多発した時代だった。このような社会情勢を受け、本集会が開催されてきたが、その問題意識は今まさに現代社会においてこそ、反映されなければならないこととして提起されて

## 部落差別撤廃・人権確立の取り組み強化を!

いると思う。世界不況が日本経済を直撃する中、景気の低迷と規制緩和を背景に、格差の拡大と固定化が一層進行し、所得の格差が働き方から教育や人格までも規定するかのとき事象が多発、凶悪事件の多発等、大きく日本社会に影響を落としている。改めて、人間教育の強化、人間の尊厳が何よりも尊い価値であり、何人も犯すことのできない価値であることを教える教育が求められている。一日も早く『人権侵害救済法』を制定させ、政府から独立した救済機関の設置と取り組み強化が必要だ。また、狭山事件も昨年、高裁・高検・弁護士による三者協議が行われ、大きくその行方が注目される事態となっている。『無実』『冤罪』の世論をさらに大きくし、再審の扉が開かれるよう全力で取り組む。本集会での皆さんの熱心な討論で、地域や



職場から部落差別撤廃・人権確立の取り組みの強化を図ろう」と主催者を代表し



てあいさつを行った。続いて、徳島県保健福祉部・坂東副部長、県教委・長谷川教育次長、徳島市・本田第一副市長から来賓のあいさつの後、石川一雄・早智子さんから日頃の支援に対するお礼と第3次再審に向け更なる支援要請のあいさつを受けた。

続いての特別公演「ムラは宝の山」では、ヒューマンネットとくしま理事長、阿波木偶箱廻しを復活する会顧問・辻本一英さんら4人による「三番叟・えびす祝福舞」が披露・実演された。辻本さんらは、1995年から徳島県独自の形態をもつ「箱廻し」や「三番叟まわし」「えびすまわし」など祝福芸の復活活動を始め、県内外の聞き取り調査や資料収集を行い、99年から「三番叟まわし」の伝承者に弟子入りし、3年間同行し門付けの技術を学び、現在800軒余りの家に福を届けていることやドイツ・韓国・フランス等で実演していることなどが報告・紹介された。

基調講演は、部落解放同盟中央本部・組坂委

員長が「部落解放運動をめぐる今日の情勢と課題」について講演し、人権侵害救済法制定に向けての動きや狭山事件の第3次再審闘



争などについて詳しく話され、「差別を許さない社会の創造をめざす協働の取り組みが重要だ」と訴えられた。

また、記念講演では人材育成コンサルタント・辛淑玉さんが「在日の立場と部落差別・人権を考える」について講演。辛淑玉さんは、被差別部落の友人の話や朝青龍引退、オバマ大統領誕生時のマスコミ報道を例に、外国人差別などについて、自分自身の体験を基に差別される側にいる人たちの不安や痛みを訴えた。

2日目は、部落解放・人権教育(I~ )社会教育と啓発、狭山・共同闘争、企業・職域自治体の課題、男女平等(ジェンダー)をテーマに8会場で分科会議論を進めた。